



・発行日
51・2・16
・発行
岡崎市AVL
・編集
広報委員会

昭和五十年 度

岡崎市放送教育研究大会終わる

去る一月三十日(金)愛宕小学校を会場に開催された昭和五十年度岡崎市放送教育研究大会は好天に恵まれ盛会のうちに終了しました。大会前日から視聴覚主任、愛宕小学校職員の献身的な努力によつて整えられた会場へ九時ごろから参会者がつめかけました。九時半前後には受付係もてんでこまい。やがて公開授業を知らせるチャームとなり、NHKテレビ・ラジオ。愛知県教育放送と多彩な放送メディアを活用した授業が展開されていきました。この大会には遠く岡山県倉敷市や長野県松本市の先生や市外各地からの参加も多数あり、市内の先生・PTAとあわせて四〇〇人近い参加者がありました。

今年度は、愛知県教育放送のモニター校(常磐小)の研究発表や、社会教育でおかあさんの代表が発表するなど変化に富んだ全体会でした。講演は文部省の社会教育官本家正文先生をお迎えし、情報化社会における放送と教

育の問題をお話いただきました。(後日、講演要旨は各校へ配布予定)

放送教育研究大会も二回目を迎え充実はしてきましたが、これからの問題も多くあるように思われます。まず第一は、研究主題から出る具体的テーマをはつきりさせ、研究の視点を明確にして各学校でとり組みやすいようにすること。第二に、各教科・領域の現職教育委員会での研究と密接な関係づけをもつことなどがあります。視聴覚教育は、一教科の問題ではないので、こうした点をより密なものにすることが重要だと思われれます。

なお、この大会が無事終了できましたのも積極的にご指導下さった市教育委員会、教育センターはじめ関係機関、司会・助言をしてくださった先生方、会場校の先生方のお陰と深く感謝致しております。

この貴重な経験を生かし岡崎の視聴覚教育の水準を一層高めるようがんばっていききたいと思えます。

分科会報告

寒いからつ風の強い日にもかかわらず、各分科

会とも熱心な参加者で教室はあふれ、立つている人も多かつたが、終始意欲的な討議が続けられ、研究内容も日常の授業に直結した切実な問題にしぼられ有意義に展開された。

(時間が不足と会員の声あり)

各分科会で討議された主な内容は次のとおり

第一分科会 小学校理科 低学年

○TV利用学習について、

- ・生、丸ごと継続で累積を大切に
- ・情報処理能力を養っていききたい
- ・理科の目標を考慮、カリキュラム手直し

第二分科会 小学校理科 高学年

○テレビ内容と教室実験とのかさなり合いはどのようにおさえたらいいか。

- ・テレビの特性(時間、空間の集約性、即時性)を生かすような利用指導
- ・学習計画にテレビの位置づけ
- ・実験観察の結果とテレビ内容との関係
- ・科学的な考え方の訓練。方法の習熟

第三分科会 小学校道徳 低学年

- ・テレビ利用年間計画への位置づけ
- ・視聴後の感動を高め話し合いの指導
- ・生視聴における発問の吟味

第四分科会 小学校道徳 高学年

- ・テレビ視聴後の指導について。主題のとらえさせ方、感動、内面化の方法

第五分科会 中学校社会

- ・情報はん濫の時代、情報選択能力をいかにとりえさせるか。(積極的にテレビ利用)

第六分科会 中学校英語

- ・少ない英語の時間でどうテレビを位置づけるか。LLとの関係
- ・生きた英語としての活用

第七分科会 FM 音楽

- ・FMを授業に利用する問題点について
- ・生は手軽で新鮮、まるごと継続(累積)が望ましい。

第八分科会 社会教育PTA

- ・マスコミ過多、教育問題の困難の中で親子のふれあい、対話はいかにあるべきか。